



## 全国連合小学校長会研究協議会 秋田大会を終えて

第71回全国連合小学校長会研究協議会

秋田大会実行委員長 七尾 尊 志

秋田県秋田市に、全国からおよそ2,300名の校長先生方をお迎えし、10月17日、18日の2日間にわたり、第71回全国連合小学校長会研究協議会秋田大会・第59回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会を開催しました。大会直前に大型の台風19号の影響により甚大な被害を受けた地域もあり、開催を危惧する声もありましたが、初日の朝に降った雨も上がり、天候にも恵まれ、無事に2日間の日程を終えることができました。

全連小の研究協議会は、秋田県では48年ぶり2度目の開催でした。全体会場として予定していた市内中心部の秋田県民会館が老朽化により取り壊しとなり、建て替えのため使用できなくなったため、郊外の秋田県立武道館での開催となりました。それに伴い、時間をかけてのアクセスバスでの移動が大きな課題として浮上し、2,000名以上の参加者をバス輸送で移動させるための大作戦が必要となりました。秋田市小学校長会が中心となって綿密な計画を練り、スムーズな運営を目指して準備を進めました。参加された校長先生方にはご不便をおかけした点もあったかと思いますが、当日は、アクセスバスが次々と順調に県立武道館に到着し、時間が遅れることなくタイムスケジュール通りに開会できました。また、全体会場から各分科会場への無料バスでの移動についても、校長先生方に放送の案内に合わせて、大変スムーズに移動していただいたおかげで、余裕をもって午後の分科会を開催することができました。参加された校長先生方の整然とした行動と、ご協力に感謝した次第です。

分科会の研究協議においては、「可視化しながら、考えを広げ、深めよう」と思考ツールを活用し、発表にも実物投影機を活用するなどして協議が深まる分科会運営に努めました。思考ツール等の有効活用により、すべての分科会で、校長の役割と指導性につい

て、熱心かつ提案性のある協議が行われ、分科会のさらなる深化を求めてきた本大会の目的を十分に果たすことができました。

今回参加された校長先生方お一人お一人の高い意識が、大会をさらに意義深いものにする原動力となったのではないかと思います。

大会2日目に行ったシンポジウムでは、卓越した経営観で知られる(株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役の佐々木常夫氏、テレビのコメンテーターとしても活躍されている読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏、地元秋田の五城目町で、「内閣官房ふるさと活性化支援チーム」の一員として活躍されている丑田香澄氏のお三方に貴重なお話をいただきました。「ふるさと 志 未来創造」をテーマにし、シンポジストの皆様の生き方や考え方など熱く語っていただき、多くの示唆に富むお話に、多大な感銘を受けました。

本研究協議会の成果が、参加された校長先生方を通じて、全国の各学校に還元され、明日からの学校経営に活かされていくことを願っています。

最後に、秋田大会を成功裡に終えることができたのは、喜名朝博会長をはじめとする全国連合小学校長会の皆様、そして、東北連合小学校長会の皆様方の心温まるご指導とご支援のお陰です。誠にありがとうございました。また、大会運営全般を振り返って、秋田市小学校長会OBの皆様と秋田県小学校長会全会員、オール秋田の熱意と誠意、まさに「秋田のそ・こ・ぞ・か・ら」を再確認いたしました。

全連小秋田大会は、北海道から受けたバトンを京都へとつなげます。来年度新たな研究主題の下で開催される京都大会の成功をご祈念いたしますとともに、全国からご参集いただきました校長先生方に心から厚くお礼を申し上げます。